

主席生誕110周年を迎えて

主席と総書記の肖像画

朝鮮各地には金日成主席と金正日総書記の銅像とともに、公共機関をはじめ各所に肖像画が掲げられ、各家庭でも掲げている。在日同胞も自国の指導者を敬う気持ちから、総聯本部・支部をはじめ各機関や家庭でも肖像画を掲げている。

▼在日同胞における肖像画の歴史を知るため在日朝鮮人歴史研究所の呉圭祥所長に尋ねた。所長によると、在日同胞団体が主席の肖像画を、他国の指導者と並べるのではなく単独で掲げたのは、1949年2月に開催された在日本朝鮮人聯盟(朝聯)第17回中央委員会のときだった。朝鮮が建国された48年が重要な転機となったことは確かだが、各家庭で肖像画を掲げるようになった経緯については確証できないとのこと。一方、金正日総書記の肖像画を公の場で掲げたのは83年1月に開かれた総書記生誕41周年記念中央講演会だった。

▼肖像画の額縁は時代の流れとともに変わっていった。カラーの肖像画、一つの額縁に二方をおさめた肖像画、住宅環境を考慮した卓上肖像画が出現したことはとくに印象深い出来事だった。現在使われている肖像画は二方が微笑んでいる「太陽像」と呼ばれるものだ。

▼筆者は幼い頃から、肖像画を掲げた家庭で、これが当たり前のこととして育ってきた。主席が在日同胞に寄せてくれた配慮と温情は語り尽くせない。肖像画を掲げるようになったきっかけはおのおのだけれど、心から敬う気持ちに違いはないと改めて思う。(朝鮮新報 4月13日号 〈春・夏・秋・冬〉)

コロナ感染者が増え続けてます

県内では連日コロナ感染者が増え続け、一日に600人を超す感染者が確認された日もありました。同胞の中にも濃厚接触者になった、子供が通う保育園でクラスターが発生して休まなければならなかったなど少なからず影響を受けた方々も多数いました。同胞たちを訪ねていくとどこに行っても「〇〇さんはどうしてる? 元気なのかしら?」「みんなが集まる機会がなくてとてもさびしい。」という声を聞きます。しかしコロナ禍の中、各支部では同胞たちが集うイベントを開催することができず心苦しく思っています。「できることをできる範囲で」と今のところは地域別、年代別の小規模の集まりを行い、同胞たちの絆を深めていくことにしています。コロナがおさまって大勢の同胞たちが集まれる日が一日も早く訪れることを願うばかりです。みなさん、くれぐれも健康には気を付けてお過ごしください。

春を感じる

9日(土)には中通り支部で、11日(月)には会津支部で、ニョメンブリザーブドフラワー教室が行われました。

講師にアドバイスをもらいながら、自分が好きなお花を選び、試行錯誤しながら飾っていき、各々満足する作品を完成させました。

コロナ禍で花を見に外出する機会もめっきり減ってしまっていますが、ブリザーブドフラワー教室を通して、春を感じる素敵な時間となりました。

13	14	15	16	17	18	19
水	木	金	土	日	月	火
15日会	チヨチヨンウリ マル教室	太陽節	ニョメン会津桜 ウォーク	チヨチヨンモイ ム		